

日本画界に新風を吹きこんだ、早逝の天才画家

山口 蒼輪 (やまぐち そうりん) 本名 山口 肇(はじめ) 堀金岩原 出身

(蒼輪が活躍した時代) 1913年(大正2年)～1950年(昭和25年) 享年36歳

| 大正 | | | 昭和 | | | | | 和 | | | |
|-----------|---------|---------|------------|--------------|-------------------------------|-----------------|------------------------------|----------|-------|-------|--------------|
| 2 | 8 | 14 | 3 | 4 | 5 | 13 | 15 | 20 | 22 | 23 | 25 |
| 烏川村岩原に誕生。 | 小学校に入学。 | 小学校を卒業。 | 日本美術学校に入学。 | 中村岳陵の内弟子となる。 | 「草」が院展初入選する。岳陵から「蒼輪」の号を与えられる。 | 日本美術院の院友に推挙される。 | 紀元2600年奉祝美術展覧会入選。外務省買い上げとなる。 | 郷里に疎開する。 | 結婚する。 | 長男誕生。 | 突然倒れ自宅で亡くなる。 |

若き蒼輪の活躍に人々は・・・

◇『天才画家現る』全国の新聞が絶賛

絵を学ぶために15歳で上京した蒼輪は、「院展」に18歳で初入選します。20歳未満の入選は、院展史上、初めてでした。

◇日本画の旧法を打ち破る作品

西洋画の手法を取り入れるなど、斬新な試みの作品を毎回院展に発表しました。第21回院展に出品した「新緑」を、『複雑な緑調の変化を日本絵の具でこれだけ表現し得るは天才』と評論家森口多里が激賞しています。

◇師 中村岳陵の蒼輪への評

『画面は清く、構想は清新、色彩美しく、秀才型の青年画家』



院展初入選作品
「草」

蒼輪の作品の特徴は

- 大胆な空間処理
- 精緻な写実
- 日本画の新しい表現と言えます。

蒼輪を生んだ山口家

山口家は、江戸時代初期から堀金の山麓に広大な屋敷を構える名家で、松本藩のお殿様が鷹狩りの際に休憩所にしていました。安永年間以降は大庄屋としての役割を担い、明治になってからは、ウェストンが常念登山の時に宿泊所とするなど、安曇野の政治や文化に深く関わってきました。一般公開され、蒼輪の作品を見ることができます。

参考文献 「山口蒼輪画集 人と芸術」 常念研究会
「早逝の大家 山口蒼輪展」 八十二文化財団

